

「濾胞性リンパ腫を中心とした難治性リンパ腫における網羅的ゲノム解析」へのご協力をお願い

—平成7年1月1日～平成26年5月31日までに当科において診断を受けられた方へ—

研究機関名 岡山大学
責任研究者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
病態制御科学専攻腫瘍制御学講座病理学（腫瘍病理）分野 教授 吉野 正
分担研究者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
病態制御科学専攻腫瘍制御学講座病理学（腫瘍病理）分野 講師 高田尚良
岡山大学病院血液・腫瘍内科 講師 前田嘉信
岡山大学病院光学医療診療部 教授 岡田裕之

1. 研究の意義と目的

悪性リンパ腫は我が国において年々増加している疾患です。その病期の型は非常に多種類におよび、その型によって患者様の治療方針や予後が全く異なってきます。我々は採取されてきた材料についてそれらを顕微鏡で観察し病理組織学的な診断をし、臨床の医師の治療方針の決定に貢献しています。しかし、病理組織学的には診断が困難な症例は少なからず存在します。また、近年の新しい抗がん剤や分子標的薬剤を以てしても根治できない悪性リンパ腫も少なからず存在します。このような中で、近年新しい遺伝子解析の手段が可能になり、これまで解明が不可能であった病気の原因がわかりつつあり、世界中で盛んに研究が行われています。私たちは、現在の治療を以てしても未だに根治できない悪性リンパ腫の患者様を対象にしてその病気の原因をつきとめ、治療へ応用する手段を見出すことを目的としています。特に濾胞性リンパ腫に関しては、罹患中に一定の割合で形質転換をすることが知られており、その場合の予後は非常に不良なものとなっています。このメカニズムは未だ不明であり、この分子生物学的なメカニズムを解明することを目的としています。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

平成7年1月1日から平成26年5月31日までの期間に当施設および関連施設におきまして悪性リンパ腫と診断された患者様100人を研究の対象とさせていただきます。同意のとれる方に関しましては、同意をとらせていただきます。

平成26年7月開催の倫理委員会以降に採取する方には直接依頼させていただきます。

2) 研究期間：

平成 26年7月開催の倫理委員会承認後～平成 29 年 7 月 1 日

3) 研究方法：

患者様より診断の目的で採取されるリンパ節、消化管臓器などの悪性リンパ腫が発生する臓器につきまして、あらかじめ凍結保存されたものを使用します。（新たに患者様に侵襲を加えて組織を採取することはありません。）この凍結材料を用いまして、遺伝子解析を行います。解析方法としては、腫瘍そのものの遺伝子発現の度合いをみるマイクロアレイという方法と、腫瘍そのものの遺伝子を読むというシーケンシングという方法があります。これらを必要に応じて応用し、腫瘍に特異的な遺伝子異常を検出する予定です。

4) 調査票等：

岡山大学およびその関連施設で悪性リンパ腫と診断された患者様を対象とさせていただいております。遺伝子解析およびサイトカイン解析におきまして得られた貴重なデータと患者様の実際の血液生化学データとを関連付けて総合的に評価する予定です。患者様のカルテからは具体的に、病期、診断された時の血液生化学データ、表面抗原解析結果、診断に必要な遺伝子解析結果（G-band など）、内視鏡検査結果、画像検査結果、心電図、手術記録、どのような治療が行われたか、およびその治療がどの程度効果があったかやその後の転帰などを抽出させていただきます。

5) 情報の保護：

患者様の個人データに関しましては、同意撤回された場合、試料の廃棄を行いますので、研究終了時までには連結可能匿名化とさせていただきます。保管場所に関しましては、腫瘍病理学教室内において施錠可能な場所に保管させていただきます。

研究結果に関しましては然るべき時期に学会（国内、海外）発表やインターネット掲載、英文雑誌に論文発表する予定です。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身や御家族の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、平成26年12月31日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様の不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御学専攻腫瘍制御学分野病理学（腫瘍病理）

高田尚良

電話：086-235-7150 ファックス：086-235-7156